



試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」 No.15

地域とともに「子ども」を真ん中にすえて

校長 中野 主税

少し前までは、子どもにとって学校の行き帰りの通学路は、楽しい道であったに違いありません。しかし今では、突然の悪天候への対処も含め、神経を張り詰めて危険を回避しながら歩かなくてはならない道になってしまいました。子どもたちを巻き込んだ凶悪な事件や交通事故のニュースは、毎日のように報道されています。こうなりますと、子どもは人間不信に陥り、大人を見るとときも、みんな悪い人のように思ってしまうがちです。しかし、悪い人はほんの一握りで、よい人の方が圧倒的に多いのです。

本校では、子どもの登下校の時刻になりますと、ボランティアのみなさんが子どもたちの安全を見守ってくれています。自分の家の前で子どもたちに声を掛けてくださる方もいらっしゃるようです。緊急時に子どもたちが助けを求める場所として、御自分の家や事業所を登録してくださっている方もみえます。

安全・安心の学校づくりは、学校が保護者や地域の中にあって、保護者や地域とともに歩むからこそできるのだと感謝しております。

子どもたちは、夏休みに各地域で行われたお祭りの話を楽しそうに話してくれました。子どもたちを保護者や地域のみなさまが温かく見守りながら育ててくださっていることを本当に嬉しく思いました。子どもたちが普段からご近所、地域の方と笑顔であいさつができ、お話ができ、自分の顔を覚えていただくといったことから、地域の方々と子どもたちのネットワークがさらに広がってくれることを願っています。家族以外の近所の大人の方から「自分は大切にされている」と実感できることは、子どもたちにとっても、とても嬉しいことだと思います。

人間として大切にされている子どもは、周りの人間を信頼するようになります。人間を信頼している子どもの心は安定しています。心が安定している時には、何でも素直に受け入れられるように育ちます。子どもの心に温かく働きかけること、これは子育ての根っこです。

保護者や地域のみなさま方の子どもたちに対する温かい働きかけ、これこそ光明小学校の教育の根っこです。「人間的な温かさ」の根っこがしっかり張れていれば、樹は自ずと育ちます。光明小学校の子どもたちは、友達や下級生を思いやるやさしさを大いにもっていますが、学校全体にあふれる「やさしさ」こそ、人間教育の根本だと思っています。

子育ての根っこをしっかり培い、幹を大きく育てるために、保護者・地域・学校が三位一体となって「子どもを真ん中にすえた学校づくり」をこれからも進めてまいります。

家庭科や読み聞かせボランティアのみなさん

ありがとうございます